

二〇二五年度B方式入学試験問題 一 時限目 国 語

二月六日

注意事項

- 一、試験開始の合図があるまで問題冊子を開かないこと。
- 二、監督者の指示に従い、別紙解答用紙の所定欄に氏名、受験番号を記入すること。さらに受験番号の下のマーク欄に受験番号をマークすること。
- 三、解答はすべて、解答用紙の解答欄にマークすること。
- 四、試験時間は六十分、問題は16ページ。

マーク記入上の注意

- (1) 解答欄にマークするときは、HBの黒鉛筆でつぎの正しい例のように濃く正確にぬりつぶすこと。解答は、該当の解答番号の解答欄にマークすること。例えば、解答番号 **10** の問に対して、
- (2) と解答する場合は

10
① ●
③ ○
④ ○
⑤ ○
⑥ ○
⑦ ○
⑧ ○
⑨ ○
⑩ ○

のようにマークすること。

悪い例

5	4	3	2	1
① ○	① ○	① ○	① ○	① ○
② ●	② ○	② ○	② ○	② ○
③ ○	③ ○	③ ○	③ ○	③ ○
④ ○	④ ○	④ ○	④ ○	④ ○
⑤ ○	⑤ ○	⑤ ○	⑤ ○	⑤ ○
⑥ ○	⑥ ○	⑥ ○	⑥ ○	⑥ ○
⑦ ○	⑦ ○	⑦ ○	⑦ ○	⑦ ○
⑧ ○	⑧ ○	⑧ ○	⑧ ○	⑧ ○
⑨ ○	⑨ ○	⑨ ○	⑨ ○	⑨ ○
⑩ ○	⑩ ○	⑩ ○	⑩ ○	⑩ ○

- 印でかこむ。
- 中身をぬりつぶしていない。
- レ印をつける。
- 一印をつける。
- 一欄に二つ以上マークする。

このような記入をしてはいけない。

- (3) 一度記入したマークを訂正する場合は、消しゴムで完全に消してから記入しなおすこと。
- (4) 解答用紙を折りまげたり、破ったり、また汚したりしないこと。

1
① ○
② ○
③ ○
④ ○
⑤ ○
⑥ ○
⑦ ○
⑧ ○
⑨ ○
⑩ ○

のように×印をしても消したことになる。

第一問 左は、森田亜紀『芸術と共在の中動態』の一節である（ただし、一部改変した）。これを読んで、後の問いに答えよ。

ドイツの社会学者ニクラス・ルーマンは、芸術システムを「知覚を用いたコミュニケーション・システム」と考えている。彼は、この領域のコミュニケーションを「芸術家」と「鑑賞者」との間に生じる出来事としたが、コミュニケーションが「情報・伝達・理解」からなる一まとまりの出来事とされる以上、そしてそのコミュニケーションの連サから社会システムが形成される以上、作品を他の誰かに呈示する者を、「芸術家」＝制作者以外にも考える必要があるだろう。そしてまた、芸術コミュニケーションにおける「芸術家」についても、呈示者としての側面が重要になってくるはずだ。

芸術における自他関係や社会システムを問題にするならば、それに加え「見せる」ということについて考察する必要がある。「見せる」とは、そもそもどのような行為なのか考察していきたい。

「見せる」ということは、芸術の領域だけでなく、対人関係一般に日常的に生じている。買って来た服を家族に見せる、オレオレ詐欺の電話の声を防犯集会の参加者に聞かせる、食品売り場で新商品を試食させる、友人にメールを送信する……。そこにある何かを他者がたまたま見る（聞く、味わう、読む）ということとは区別される、何かを他者に「見せる」ことである。商店街のディスプレイも、駅に流れる音楽も、入学試験の問題文も、他者がそれを見たり聞いたり読んだりするようしつらえられているという意味で、言い換えると、誰かが他者にそれを見たり聞いたり読んだりさせようとしつらえたという意味で、「見せる」一般と考えることができる。生後一年になるかならぬかの乳児でさえ、養育者に対し、興味を覚えた何かを指差して、相手にその何かを見るよう促すことが観察されている。これも「見せる」の一種と考えてよいだろう。発達のごく初期から、「見せる」は生じている。他者にはたらしきかけて、第三項を介した自他関係（三項関係）を生じさせようとする行為である。

A1

「見せる」ということについての考察を、発達心理学が報告する乳児の事例から始めてみたい。そこに「見せる」ということの原型、基本的特徴が見て取れるのではないか。

発達心理学は、乳児の他者（養育者）との関係において、「共同注意」に注目する。共同注意は、乳児が養育者と同じものを見る三項関係を言い、生後九カ月頃から観察されるようになる。発達心理学者のやまだようこは、それ以前に生じていた養育者との関わりという二項関係と、物との関わりという二項関係とが結合して、この三項関係が成立すると考える。発達心理学者の**はまだすみお**濱田寿美男は、共同注意が成立するには、乳児が、あるものを見ながら、養育者もまたその同じものを見ていることを見ていなければならぬと指摘している。つまり共同注意においては、他者との関わり、物との関わりが、それぞれすでに成立しており、その上で、他者だけでも物だけでもなく、他者が自分と同じ物を見ているということ、同じ物を見ている **B1** の見方や態度へも注意が向かっているわけだ。 **B2** とこの関係が、乳児の「意味世界の敷き写し」、「文化学習」、「文化化」などと言われる発達をもたらす。 **A2**

生後九カ月頃から観察されるようになる共同注意には、乳児が他者の視線を目で追って両者で同じ物を見る場合と、乳児が **B3** の興味の対象に **B4** の視線を意図的に方向づけて両者で同じ物を見る場合とがある。前者が追跡的共同注意、後者が誘導的共同注意とされる。ここで言われる誘導的共同注意が、われわれの問題にする「見せる」に相当するだろう。具体的には、指差し、提示、手渡しという行動である。

誘導的共同注意の① **テン型例**が指差しである。やまだは、**C** 自分の息子にはじめて指差し行動が出現した場面を報告している。生後九カ月十九日、息子は母親に抱かれて階段を降りる途中、大きな声で「アー」と言いながら、左手を上方に挙げ人差し指をやや突き出すような指差しをした。その方向を見ると、踊り場に置いてある本棚の上の壁に夕日が射し込んで「赤く輝く光の四角形」が生じており、息子はその光をじつと見ていた。翌日も同様の状況で指差し行動が見られた。さらに数日後には、母に抱かれて庭のテラスに出た時に、「アー」と発声しながら庭で一番高い**えのき**榎の上部の繁みを指し、その方向をじつと見つめることが三度あった。また居間で大きな犬のぬいぐるみで遊んだ後に母親がそれを和ダンスの上に向けて片付けると、それを見上げて（「あそこへ行っちゃった」というように、欲しがっている時とは区別される様子で）「アー」「アー」と指差し、指差しをしながら犬と母親の顔を交互に見ることを繰り返した。やまだは息子の指差しを、「やや遠くにある目立つものに驚き、感動したよう

に指し示す行動からはじまった」と理解し、それを「驚き、定位、再認の指差し」と名づけている。

A3

乳児の指差しは一般に「命令の指差し」、「叙述の指差し」、「情報提供の指差し」に分類される。命令の指差しは、手の届かない物を指差し取ってもらうなど、自分の欲しい物をカク得るための指差しである。叙述の指差しは、自分の見ているもの。ただ相手が見るよう求めるだけの指差しであり、対象（とその意味）を相手と共有することが目的とみなされている。情報提供の指差しは、例えば相手が何かを探している時に、自分には必要な物であるのにそれを指差しするというように、相手の必要とする情報を教えるための指差しである。

共同注意や指差しは、「共有」や「共感」、「他者との同一化」などという文脈で取り上げられる傾向がある。例えば、アメリカの認知心理学者マイケル・トマセロは、共同注意を、

D1

に基づける。トマセロが強調するのは、「自分と同じよう

に」という点である。乳児は、カン境に対するはたらきかけ（感覚—運動行為）を通じて目的と手段を区別するようになるなど、認知機能を発達させ、自分自身の意図性を経験するようになっていく。他方、新生児の共鳴動作にあらわれるように、乳児には発達のごく初期から、他者を「自分のように」捉える能力、「他者との同一化の能力」がある。この「他者と同一化する能力」によって、

D2

につながるとトマセロは考える。ここでは共同注意における「同じように」と「共有」が重視されて

いる。やま達は、生後三から四カ月までの養育者との対面的二項関係が、

D3

であるとし、このつながりをもとに

「共に並んで同じ物を眺める」というかたちで指差しが始まると捉えている。ここでは「同じ場に共に立ち、並んで同じものを見ることで共感の波が横から伝わる」。指差しにおける「共存」や「共感」が強調されるのである。

共同注意に「同じであること」や「共感」が重要なはたらきをするとしても、それだけでは共同注意は成立しないだろう。やま達ははじめ多くの研究者が指摘する新生児における自他未分の「融合状態」、養育者と顔を合わせて見つめ合い微笑み合っている情動を共有する「相互同調」の状態のまま、指差しが生まれるとは考えられない。共同注意、とりわけ指差しをはじめとする誘導的共同注意が成立するには、乳児が「融合状態」や「相互同調」から離脱していなければならない。他者と融合しているのであれば、自分の見ている何かをわざわざ相手に見せる必要、見せようとする必要などはないか。「共」や「合」（の強

調)は、語らないまでも、「別」や「離」の状態を前提としている。

この点に関して、発達心理学者の大藪泰^{おおやふやすし}が以下のように述べている点が重要である。

指さしは、他者を「自分のよう」に感じ、同時に「自分ではない」とも感じる、その力動性のもとで出現する行動である。

指差しにおいて、乳児は他者との差異も感じているという指摘である。大藪は、乳児が養育者と顔を合わせて見つめ合う二者関係の中に、自他の違いを気づかせるはたらきを見る。養育者との二者関係に生じている「情動調律的」状態では、乳児の微笑みに養育者の微笑みが返り、養育者のやさしい語りかけに乳児がやさしい声を出すというような「鏡映化」^Eが生じている。しかし鏡映された養育者の行動は、乳児のそれと似ていても全く同一ではない。「異なる身体をもつ母親の応答は、乳児の行動とは時間的にも形態的にも、また強さでも異なっている。乳児は母親との出会いを重ねながら、こうした違いに気づいていく」。大藪はこの乳児の気づきが、「自他の混同」を脱して独立性を確保することにつながる^Eと考える。それを踏まえて指差しは、自分とは異なると感じられる他者が自分と同じようだと感じられるがゆえに、あるいは自分と同じようだと感じられる他者が自分とは異なるとも感じられるがゆえに、自分の見ている物をわざわざ指差しして、それに注意を向けさせようとするふるまいと理解されることになる。

A 4

乳児において、自他未分の融合状態からの離脱がどのようにして生じるかについては、大藪のそれ以外にもさまざまな理解が可能だろう。そもそもこれは、乳児にとって自他未分から「自」と「他」がどのように分出するかという大問題である。トマセロの言う「自分自身の意図性の経験」も、この問題に関与するはずだが、今はこの問題それ自体に深入りはしないでおく。ともあれ大藪の論は、指差し出現の要因として「自分と同じ」だけでなく「自分と違う」をも明確に指摘し、指差しを両者の「力動性」から理解しようとする点において、「見せる」考察の足掛かりとなる。

A 5

「見せる」の基^①バンは、自他の間に「同じ」と「違う」とが同時に感知されること、拮抗^{きっこう}する「同じ」と「違う」とが動的に関係することと理解できる。以下それを踏まえて、発達心理学が乳児に見出した誘導的共同注意の分類、すなわち命令的共同注意、叙述的共同注意、情報提供的共同注意という分類を考察していく。

命令的共同注意と情報提供的共同注意において、「見せる」は手段である。前者では乳児が自分の欲する物を手に入れるための手段、後者では乳児が他者（養育者）の必要とする情報を他者に与えるための手段と考えられる。相手である他者は、前者の場合、見せられた物を見ることによって、乳児が何を欲しがっているかを知ってそれを与え、後者の場合、自分の必要とする情報を得て自分の行動を継続する。ここにおいて、見せられたものを見ることもまた手段である。命令的共同注意としての「見せる」は、他者（養育者）が乳児の欲する物を知らない（ということを知っている）という「違い」を出発点とする。その上で乳児は自分の欲する物を養育者が見ることによって自分に与えてくれると思っっている。

を欲すると、養育者が自分と同じように感じてくれるという「同じ」が見込まれている。

G3	G4	F	G1	G2
----	----	---	----	----

私たちの「同じ」である。ここで指差しの目的は、他者（養育者）の利益である。

叙述的共同注意において「見せる」と「見る」は、命令的共同注意や情報提供的共同注意と異なり、はつきり何かの手段になっではない。相手に「見せる」こと、相手が指差された物を「見る」ことそれぞれ自体が、まず目ざされている。乳児は、自分の見ている物を相手も見るように指差す。出発点は、他の場合と同様、自分（乳児）の見ている物を相手（養育者）が見ていない（ということを知っている）という「違い」である。相手（養育者）がそれを見ることは、同じ物を見るという「同じ」行為であり、そのことによって相手と自分が共に同じ物を見るところが成立する。この状態の成立こそが、求められている。多くの論者は、ここに共感を見る。指差すことで相手（養育者）が自分（乳児）と同じ物を見て、「同じ」ように感じるだろうという、「同じ」が見込まれていることになる。おそらく叙述的指差しの出発点はそうなのだろう。しかし大藪が報告する生後二十一〜二十四カ月での事例は、別のあり方を示しているように思われる。子どもと母親が遊んでいる場に、ぬいぐるみ

の鯨がバスケットから飛び出すように仕掛けた実験で観察された例である。親が飛び出した鯨のぬいぐるみに気づかないふりをしていると、気づいた子ども（生後二十四カ月一日）は「コレ」とぬいぐるみを指差し、指差しながら母親の顔を見て、「サカナ？」と聞き、「サカナ？」と言いながら母親とぬいぐるみを見比べた。この指差しが、自分が見て気になったぬいぐるみを母親も見ること、両者が共に同じ物を見るところを求めているのは確かだろう。ただしここで子どもは、自分が（サカナかと）見たぬいぐるみを他者（母親）はどう見るのかと、「同じ」をいわば宙づりにして、他者にそれを見るよう求めているように思える。この指差しでは、共感という「同じ」を単純にあてにするのではなく、他者が同じ物について違った見方をするかもしれないという「違い」の可能性が見込まれているようだ。この事例は、指差しの始まりからおよそ一年が経過し、言語の使用が始まっている状態のもので、自他の分離が進んでもいるだろう。その時期の、それでも二歳になるやならざる幼児の指差しに、「同じ」だけでなく「違い」も見込んだ指差しが観察される。「同じ」物を見ることが生み出す「違い」にも向かう「見せる」と考えてよいだろう。

問1 次の一文が入る最も適切な箇所をA1からA5の中から選べ。

1

その意味で共同注意は、文化的に成立している人間社会へ子どもが参入する過程に、重要な役割を果たすと考えられている。

- ① A 1
- ② A 2
- ③ A 3
- ④ A 4
- ⑤ A 5

問2 空欄B1からB4に入る言葉の組み合わせとして、最も適切なものを次から選べ。

2

B1 B2 B3 B4

- ① 自分 | 自分 | 他者 | 自分
- ② 自分 | 他者 | 他者 | 自分
- ③ 他者 | 他者 | 自分 | 他者
- ④ 他者 | 自分 | 自分 | 他者
- ⑤ 他者 | 他者 | 他者 | 自分

問3 傍線部Cは、次のどれを表した場面か。最も適切なものを選べ。

3

- ① 命令の指差し
- ② 意味世界の敷き写し
- ③ 情報提供の指差し
- ④ 相互同調
- ⑤ 叙述の指差し

問4 空欄D1からD3には、次のaからcのいずれかが入る。最も適切な組み合わせを次から選べ。

4

- a 同じ場所で情動を媒介に相手に合わせて共存・共鳴する状態、自他未分に「場所の中に溶け込んでいる状態」
- b 「他者が意図を持つ存在であり、外界のものに対する注意を自分と共有できる相手であること」の理解
- c 自分自身の意図性の経験が「他者も自分と同じように意図を持つ主体であることを理解する」こと

D1 D2 D3

① c | b | a

② a | c | b

③ b | c | a

④ c | a | b

⑤ b | a | c

問5 傍線部Eの説明として、最も適切なものを次から選べ。

5

- ① 自分自身と鏡に映っている自分の区別が付き、その差異を感じられること
- ② 乳児と養育者が、あたかも鏡に映ったように顔を合わせて一緒に微笑むこと
- ③ 他者を「自分のよう」に感じると同時に「自分ではない」とも感じること
- ④ 相手（他者）の言動や表情に合わせた反応をすること
- ⑤ 養育者が鏡のように、乳児の言動を真似したり繰り返したりすること

問6 空欄Fに入るものはどれか。最も適切なものを次から選べ。

6

- ① すなわち
- ② したがって
- ③ 凶らずも
- ④ 反対に
- ⑤ そればかりか

問7 空欄G1からG4には次の4つの文のいずれかが入る。その組み合わせとして、最も適切なものを次から選べ。

7

- a そして指差し目的は自分（乳児）自身の利益である。
- b ここにおける「同じ」は、乳児に養育者（他者）が同化する（乳児の視点から物事を理解する）かたちの「同じ」である。
- c その上で、必要としている何かを養育者自身は見えていないが自分（乳児）は見ている（ということを知っている）という「違い」から、指差して養育者に教える。
- d これに対して情報提供的共同注意としての「見せる」には、他者（養育者）が或る何かを必要としている（ことを乳児が（自分に必要なくても）養育者と同じように感じているという「同じ」が前提にある）。

G1 G2 G3 G4

- ① a | c | b | d
- ② c | b | d | a
- ③ b | a | d | c
- ④ a | b | c | d
- ⑤ b | d | c | a

問8 筆者による乳幼児に観察される指差しの理解として、明らかに適切でないものを次から選べ。

8

- ① 指差しは手段であり、物との関係において、相手が自分と同じであるとし、自分の利益を図ろうとする
- ② 指差しは手段であり、物との関係において、自分が相手と同じであるとし、相手の利益を図ろうとする
- ③ 指差しは手段ではなく、自分と相手が同じ物を見ることがあり、共感を志向する
- ④ 指差しは手段ではなく、相手が自分と同じ物を見ることがあり、異なる反応を志向する
- ⑤ 指差しは手段ではなく、自分と相手が同じ物を見ることがあるが、異なる反応を志向する

問9 日常的な「見せる」場面と筆者の言う3つの共同注意の組み合わせとして、最も適切なものを次から選べ。

9

- ① 警察が指名手配犯のポスターを街中に掲示する ————— 情報提供的共同注意
- ② 旅先で自撮りした写真をSNSに投稿する ————— 情報提供的共同注意
- ③ 糖尿病の栄養指導で管理栄養士が試食させる献立例を患者に見せる ————— 命令的共同注意
- ④ デパートの試着室で身につけた洋服を一緒にいる友人に見せる ————— 叙述的共同注意
- ⑤ 生命保険の内容を説明するために客にパンフレットを見せる ————— 叙述的共同注意

問10 本文の考察をふまえると、芸術における「見せる」とはどのような行為なのか。筆者の考えとして、最も適切なものを次から選べ。

10

- ① 見る側と見せる側の双方が情動を共有する「相互同調」が生み出される契機になること
- ② 見る側に共感をもたらすとともに、見せる側との違いを理解する契機になること
- ③ 見る側に共感をもたらすとともに、見る側が見せる側との同一化を図る契機になること
- ④ 「見せる」対象である芸術への評価を受ける契機になること
- ⑤ 見せる側の芸術作品に込めた意図を見る側に正確に伝える契機になること

問11 文中の二重傍線部⑦から⑩のカタカナ部分と同じ漢字を用いるものを次から選べ。

- | | | | | | | | | | | |
|----|---|------|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|
| 11 | ⑦ | 連サ | ② | 学級閉サ | ③ | 野外調サ | ④ | 機械操サ | ⑤ | 音サ汰 |
| 12 | ⑧ | テン型例 | ② | テン移 | ③ | テン加物 | ④ | 式テン | ⑤ | 損失補テン |
| 13 | ⑨ | カク得 | ② | カク差社会 | ③ | 企カク会議 | ④ | カク大解釈 | ⑤ | 漁カク高 |
| 14 | ⑩ | カン境 | ② | カン元率 | ③ | 会計カン査 | ④ | 金融カン和 | ⑤ | カン素化 |
| 15 | ⑪ | 基バン | ② | 看バン | ③ | 岩バン規制 | ④ | 改訂バン | ⑤ | バン能 |
| | ① | バン奏 | | | | | | | | |

第二問 左は、鎌倉時代の教訓説話集『十訓抄』の一節である（ただし、一部改変した）。これを読んで、後の問いに答えよ。

まことや、この御時、一つの不思議ありける。上東門院（注1）の御帳Aの内に、犬の子を生みたりける、思ひかけぬBありがたきことなりければ、おほきに驚かせ給ひて、江匡衡（注2）といふ博士に問はれければ、「これ、めでたき御吉事なり。」C犬の字は、大の字のそばに点をつけり。その点を上につけば、天なり。下につけば、太なり。その下に、子の字を書きつづくれば、天子とも、太子とも読まるべし。かかれば、太子生れさせ給ひて、天子にいたらせ給ふべし」とぞ申し。□D。そののち、はたして皇子御誕生ありて、ほどなく位につき給ふ。後一条天皇、これなり。匡衡E、風月の才に富めるのみならず、かかる心ばせども深かりけり。

同じ帝、生れ給ふ時、上東門院、ことのほかに悩Fばせ給ひければ、御堂入道（注3）殿、さわがせ給ひて、御前より御障子を開けて、走り出でさせ給ひて、「こはいかがすべき。」G御誦経みずきやうなどかさねてすべき」と仰せられけるあひだ、御言葉、いまだ終らざるに、勘解由相公有国卿（注4）、いまだ若かりける時、申していはく、「御産はすでに成り候ひぬるなり。かさねて御誦経に及ぶべからず」と申すほどに、女房、走り参りて、「御産、すでに成りぬ」と申しけり。事落居ことらくぐいののち、有国を召して、「いかにして御産成りぬ」とは、知りけるぞ」と問はせ給ふに、「障子Jは、子を障さふと書いて候ふに、広く開きて候ひつれば、御産成りぬ、と存じ候ひつる」と申しけり。

〔注〕 1 上東門院——藤原道長の娘、彰子（九八八～一〇七四年）。一条天皇の中宮。紫式部や和泉式部などが仕えた。

2 江匡衡——大江匡衡（九五二～一〇一二年）。平安中期の学者。広い学才で知られた。

3 御堂入道殿——藤原道長（九六六～一〇二七年）。平安中期の公卿。娘彰子らを入内させ、摂関政治の最盛期を築いた。

4 勘解由相公有国卿——藤原有国（九四三～一〇一二年）。平安中期の公卿。道長の家司として活躍した。

問1 傍線部Aは何か。最も適切なものを次から選べ。

16

① すだれ

② とぼり

③ びょうぶ

④ しとみ

⑤ たたみ

問2 傍線部Bの現代語訳として、最も適切なものを次から選べ。

17

① めったにない

② すさまじい

③ いたたまれない

④ 感謝したい

⑤ 趣がある

問3 傍線部Cについて、この吉事によりどのようなことが予想されるといっているのか。最も適切なものを次から選べ。

18

① 上東門院が思いがけず犬の子を産むこと

② 上東門院が子を産み、その子が天皇となること

③ 犬が人間の子を生み、その子が天皇となること

④ 大江匡衡の家に跡継ぎとなる子が生まれること

⑤ 御一条天皇の子が次の天皇となること

問4 空欄Dに入る言葉として、最も適切なものを次から選べ。

19

① けり

② べき

③ けれ

④ べし

⑤ ける

問5 傍線部Eについて、どのような才能か。最も適切なものを次から選べ。

20

① 医薬

② 星占い

③ 天気予報

④ 詩歌

⑤ 恋愛

問6 傍線部Fの終止形「悩ぶ」のこの文脈における現代語訳として、最も適切なものを次から選べ。

21

① 物思いにふける

② 難産で苦しむ

③ 人を苦悩させる

④ 心を痛める

⑤ 悩みを相談する

問7 傍線部Gの現代語訳として、最も適切なものを次から選べ。

22

- ① だれのしわざだろう
- ② どうしようもないことだ
- ③ どのくらいたつのだろう
- ④ どういうつもりだ
- ⑤ どうしたらよいだろう

問8 傍線部Hの文法的説明として、最も適切なものを次から選べ。

23

- ① ク活用の形容詞「若し」の連用形＋過去の助動詞「けり」の連体形
- ② ラ行四段活用の動詞「若かる」の未然形＋ラ行四段活用の動詞「ける」の終止形
- ③ ク活用の形容詞「若し」の未然形＋詠嘆の助動詞「けり」の連体形
- ④ ラ行四段活用の動詞「若かる」の連用形＋過去の助動詞「けり」の連体形
- ⑤ ク活用の形容詞「若し」の連用形＋詠嘆の助動詞「けり」の連用形

問9 傍線部Iについて、有国は彰子が無事出産したことをどのようにして知り当てたのか。最も適切なものを次から選べ。

24

- ① 「障子（しょうじ）」と藤原道長の娘である「彰子（しょうし）」の語呂合わせに縁を感じて
- ② 藤原道長が娘のために障子を開けて繰り返し誦経を行っている姿に、親子の絆の深さを感じて
- ③ 「障子」の字は「子をさまたげる」と書くが、その障子が開いたことで難事が去ったのを感じて
- ④ あわてた藤原道長が障子を開けてしまったことで、彰子のお産の様子が丸見えになって
- ⑤ 障子に「子を障ふ」と書きつけたら障子が勝手に開いたことを、神仏のご加護だと思って

問10 傍線部Jの主格として、最も適切なものを次から選べ。

25

- ① 御堂入道殿
- ② 勘解由相公有国卿
- ③ 女房
- ④ 江匡衡
- ⑤ 後一条天皇